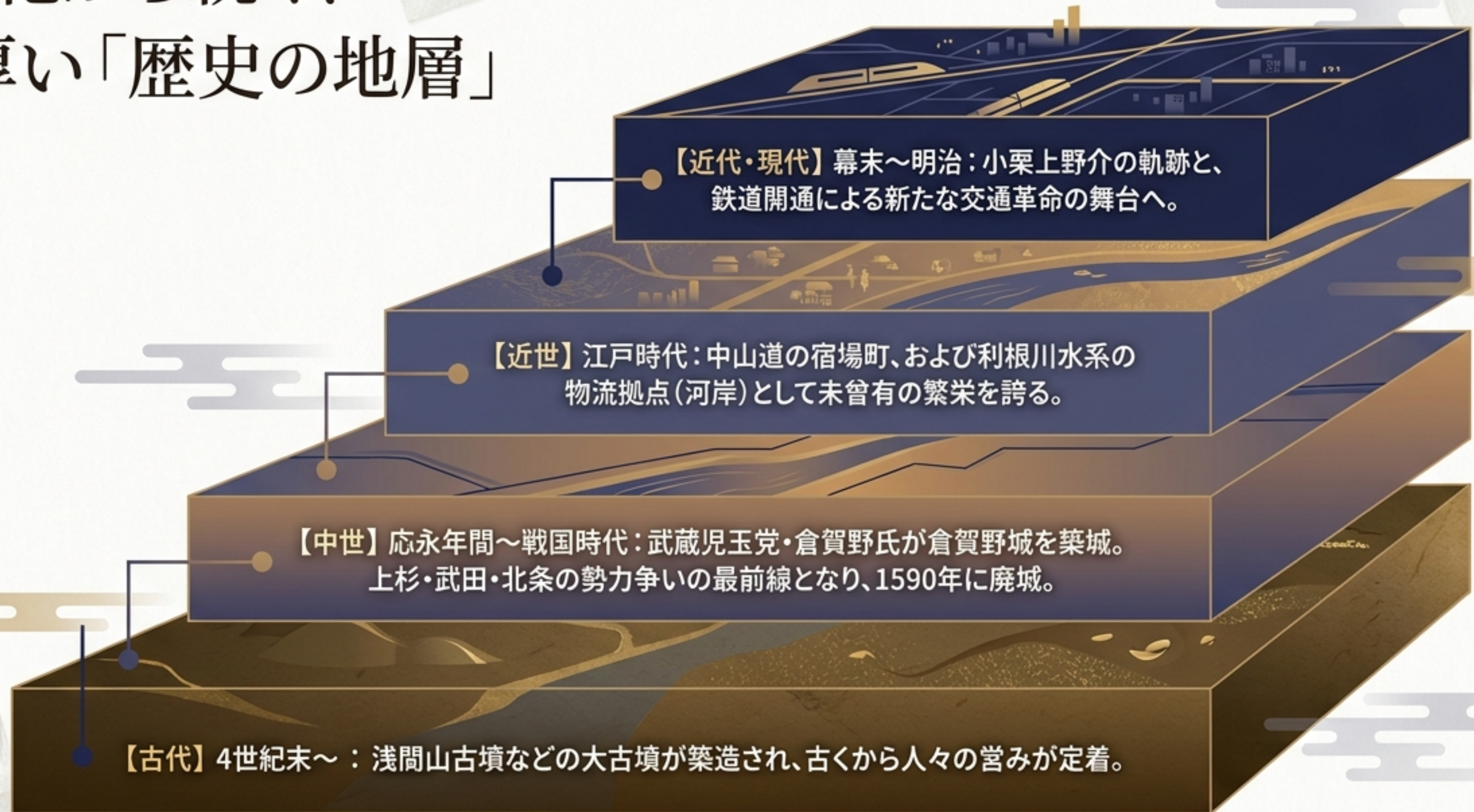


倉賀野町：歴史の地層が交差する街

陸路と水運、そして幕末の先導者・小栗上野介が残した
「重層的な価値」を紐解く

Presented by くらがの三方よし不動産 / 株式会社クレセール

4世紀から続く、 分厚い「歴史の地層」



繁栄の双発エンジン：宿場町 × 河岸

倉賀野の最大の特徴は、中山道の「宿場」と烏川の「河岸」という複合的な交通要衝であったこと。



陸の拠点：中山道 第12宿

- ・機能: 江戸から12番目の宿場。日光例幣使 街道の分岐点。
- ・規模（1843年）: 家数297軒、旅籠32軒、人口2,032人。本陣1軒、脇本陣2軒。
- ・ピーク時（1803年）: 家数453軒、旅籠64軒、人口2,056人。



水の拠点：利根川筋最上流の大河岸

- ・機能: 幕府公認。江戸湾から50里の船路を結ぶ物流の要。
- ・規模: 最盛期には米300俵積みの大船を含め、150艘余りが往来。
- ・幕末の役割: 横浜開港後、上州の生糸を輸出し日本の産業を支える。

江戸湾から50里：烏川が運んだ富と物資

上り荷 - 江戸湾から倉賀野へ

- 総量: 約2万2千駄
- 主な積荷: 塩、茶、小間物、糠、干鰯、綿、太物類

下り荷 - 倉賀野から江戸へ

- 総量: 約3万駄
- 主な積荷: 米、大豆、麻、紙、煙草、板貫類

単なる通過点ではなく、日本経済の動脈として機能していた倉賀野河岸。

幕府の運命を超えて日本を見た男：小栗上野介忠順



「幕府の運命に限りあるとも、日本の運命には限りがない。幕府のしたことが長く日本のためになるのであれば、徳川家の名誉ではないか」

プロフィール

(1827-1868) 三河小栗家12代当主。2027年大河ドラマ「逆賊の幕臣」主人公。

業績

1860年遣米使節として渡米しワシントン海軍造船所を視察。外国奉行・勘定奉行として横須賀製鉄所を建設し、近代工業化の礎を築く。

遺産と評価

東郷平八郎（1912年）「日本海海戦で勝利できたのは、小栗さんが横須賀造船所を造っておいてくれたおかげです」

1本の「ネジ」に込められた近代化への執念

1860年、アメリカから
持ち帰られた一本のネジ。



単なる部品ではなく、日本の
近代工業化への強い決意の象徴。

現在、権田村（倉渕）の東善寺「小栗公遺品館」に、
刀や槍、小銃とともに厳重に保管されている。

この小さな金属片が、横須賀製鉄所を生み、後の近代日本の運命を大きく変える起点となった。

歴史が交差する瞬間：小栗の荷と倉賀野河岸

江戸を離れ、権田村へ向かう小栗を支えたのは、倉賀野の強力な物流ネットワークだった。

Context (コンテキスト)

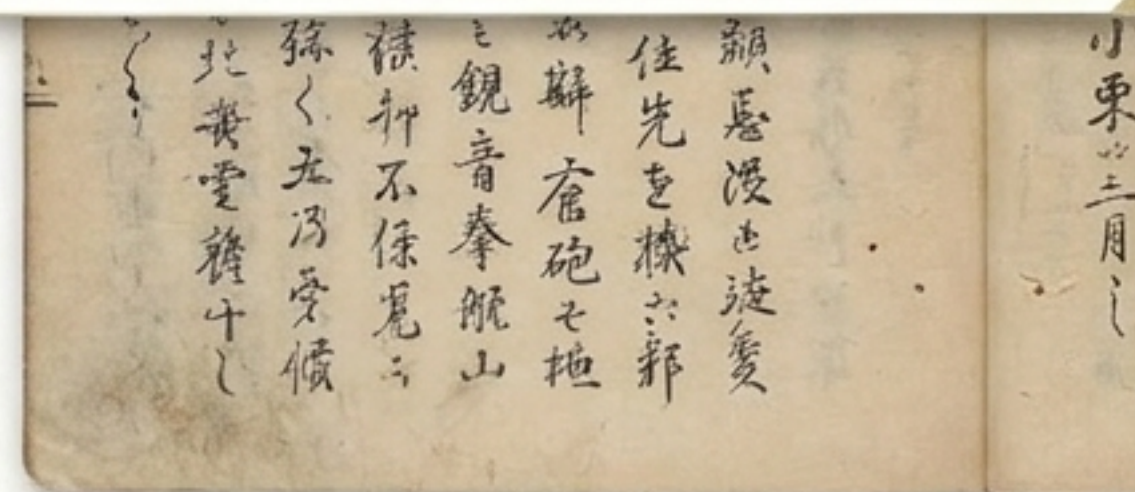
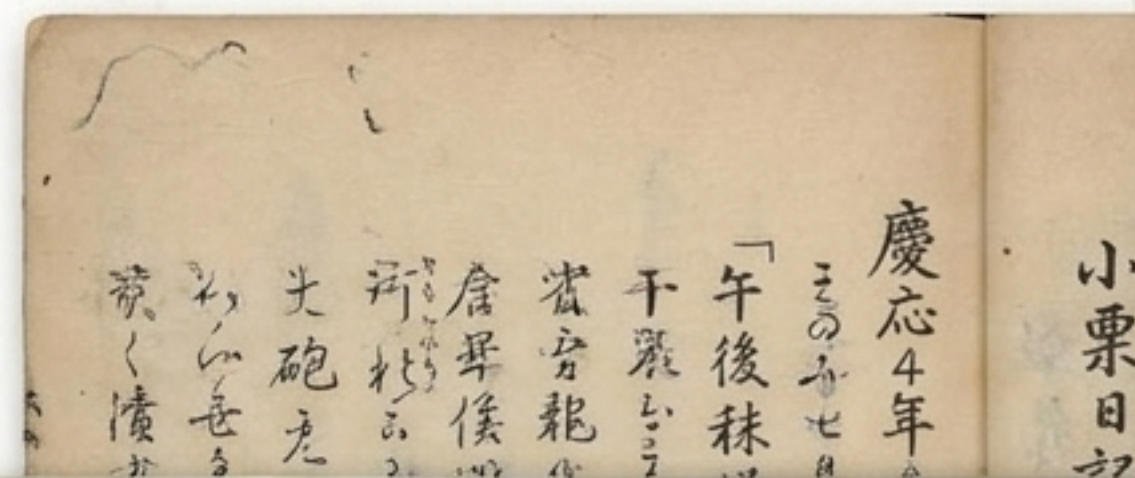
この大砲は砲弾も火薬もない飾り物であったが、大量の物資が倉賀野河岸を経由していた動かぬ証拠。

Research Note (研究ノート)

平成4年(1992)、地元研究者・矢島ひろ明氏がこの事実を確証し『小栗上野介忠順 その謎の人物の生と死』を出版。倉賀野の歴史的価値が全国にPRされる。

慶応4年4月8日『小栗日記』

「午後秣場～観音山へ・倉賀野河岸から大砲その他荷物が着く」



権田村での64日間：指導者としての最期

慶応4年1月28日-29日【決断】

幕府へ権田村への「土着願書」を
提出し許可を得る。

3月4日【防衛】

約2千人の暴徒が襲来。家臣・
村人ら百人を5隊に分け撃退。
地域の秩序を維持。

3月1日【到着】

東善寺に入り、観音山に居宅
建設・水路開発を進める。

閏4月5日-6日【無念】

高崎・安中・吉井三藩により捕
縛。取り調べなきまま、翌朝水
沼河原で斬首（享年42歳）。

「徳川埋蔵金伝説」が証明する倉賀野の重要性

伝承 (The Legend)

「利根川を遡る船から赤城山中へ何かが運ばれた」。
戊辰戦争時、新政府軍が御用金を求め、実際に倉賀野の蔵に踏み込んで搜索を行った。

史実 (The Reality)

小栗は横須賀製鉄所建設に莫大な資金を投入しており、蓄財の余裕はなかった。

なぜこのような伝説が生まれたのか？

それは、「倉賀野河岸の圧倒的な物流拠点としての機能」と、
「小栗上野介の計り知れない政治的影響力」が結びついた結果である。

近世から近代へ：役割を終えた河岸、次なる時代へ

明治16年(1883)まで賑わいを見せた倉賀野河岸は、3つの要因により徐々に衰退していく。

【自然】

1783年・浅間山噴火による河川の浅化

【経済】

享保年間以降の各地の米市場発達による出荷減少

【技術】

1884年・高崎線開通による鉄道輸送への劇的な転換

舟運 (River Transport) から
鉄道 (Railways) へ

物流の主役は川から鉄路へ。しかし、倉賀野はその「近代日本発展の転換点」を色濃く残す史跡となった。

現代に息づく歴史の痕跡：複合的交通遺産

【須賀家住宅】

明治36年(1903)再建。脇本陣の面影を残す表門、ウダツ、細かい格子戸。

【ノコギリ状の道】

牛街道や河岸道に残る特異な構造。荷下ろし時に通行の妨げにならないよう工夫された町割り。

【小栗関連史跡】

倉賀野町内に建つ「勘定奉行小栗上野介忠順公と埋蔵金ゆかりの地」の碑。

【東善寺の記憶】

村人が建立した小栗父子・家臣の墓。彼を偲ぶ「黒椿」。年に一度の「小栗まつり」。



重層的な歴史空間、倉賀野を受け継ぐ

- ・ 古代の古墳から、中世の城下、江戸の宿場と大河岸、そして近代化の波まで。
- ・ 舟運と街道が交差し、小栗上野介という先導者の運命と結びついた特異な街。

倉賀野町は、単なる過去の遺物ではなく、
日本の転換期を一体で体感できる貴重な「歴史の地層」です。
この街の価値を知り、愛し、未来へ繋ぐこと。

くらがの三方よし不動産は、この豊かな歴史空間における皆さまの「住まい」と「不動産」の物語をサポートします。